

平成26年度 文化庁日本語教育研究協議会【熊本】
「生活者としての外国人」のための日本語教育ワークショップ
第2分科会

行動・体験中心の活動を デザインしてみよう

～教材例集を参考に～

2014年10月4日
熊本県総合福祉センター

矢部まゆみ

横浜国立大学非常勤講師

横浜市日本語学習コーディネート業務アドバイザー

第2分科会の流れ

0. はじめに ～なぜ「行動・体験中心の活動」なのか～
1. カリキュラム案についておさらい
2. 行動・体験中心の活動について
3. 行動・体験中心の活動のデザインについて
考えてみよう
4. 教材例集活用の留意点
5. 質疑応答

0. はじめに

～なぜ「行動・体験中心の活動」なのか～

なぜ「行動・体験中心の活動」なのか

- 「行動・体験中心の活動」ときいて
イメージするものは？

⇔「行動・体験中心の活動」ではないものは？

- 自分の実践の中での「行動・体験中心の活動」の
例を挙げると...
- 「行動・体験中心の活動」を取り入れる中で
感じていることは？

意義

効果

葛藤

課題

など

なぜ「行動・体験中心の活動」なのか

五感に訴える
ピンとくる
わかりやすい

「できるようになった！」
という達成感

自信

動機が
高まる

生活場面・課題
との密着

「すぐに使える」
「役に立つ」
という実感

つながり
かかわり

対話

相互理解

協働

初級の学習者には
難しい？

本当に
そう？？

視覚教材
の工夫

多言語話者
(先輩学習者
など)の活用

ことばが体系的に
積み上がらない？

そもそも継続して
通える人ばかり
なのか？

どのように準備したら
いいのか
わからない？

組み合わせ
方の工夫
いろいろ！

ようこそ
今日の
ワークショップ
へ！

文化庁「カリキュラム案」での言語・言語習得の考え方

➤ 言語学習

- ・学習者が「できるようにになりたい」と望む生活上の行為を選ぶことで言語学習が進む

➤ 教室活動

- ・生活上の行為と教室活動がつながっていること
⇒ 体験・行動中心の活動

➤ 日本語教室から地域社会へ

- ・学習者の主体性を重視→学び続ける生涯学習へ
- ・地域住民との協働活動を取り入れる→対等な人間関係
⇒ ネットワークの構築
⇔ 自立

★単発型★

YOKE

日本語コミュニケーションワークショップ第2回「健康・病気・けが」

＜準備＞
じゅんび
jun bi
(preparation)
なふだ なまえ か
Nafuda ni namae o ka ki ma su
(name-plate) (name) (write)

12:30～
あいさつ・説明
Aisatsu setsumuei
(introduction) (explanation)

ウォームアップ: 日本語 エアロビクス
wo o mu a ppu ni ho n go e a ro bi ku su
(warm up) (nihongo) (aerobics)

ゲーム: 身体のことば & 病気のことば
Ge e mu kara da no ko to ba byou ki no ko to ba
(game) (body parts) (words) (illness) (words)

「多言語医療問診票」を 使ってみましょう
tagenngo-iryuu-monshinnhyou o tsukatte mimashou
(multilingual medical questionnaire) (let's try to use)

ビデオ: 「病院で」
Bi de o byou inn de
(video) (hospital) (at)

みんなで スキットを 作りましょう。 ロールプレイを しましょう
Mi rin na de su kit to o tsukuri mashou rou ru pu re i o shimashou
(everybody together) (skit) (let's make) (role playing) (let's do)

13:50～
今後の ワークショップの 予定
Konngo no waa ku sho ppu no yotei
(future) (workshop) (schedule/plan)

13:55～
アンケートを 書きます
A nn ke e to o ka ki ma su
(questionnaire) (fill out)



◎身体のことばと病気のことばのカードを使ってかるた取りをしました。



一般の日本語母語話者も学習者と一緒にロールプレイをしました。

参照:
横浜市国際交流協会HP
「H24 教室実習型研修
実施報告」
第II期日本語コミュニケー
ション・ワークショップ
第2回 健康・病気・けが
[http://yoke.or.jp/8niho
ngo/nihongo/24nen_ji
sshugata_keishu_ho
koku_toshi.pdf](http://yoke.or.jp/8niho_ngo/nihongo/24nen_ji_sshugata_keishu_ho_koku_toshi.pdf)

「行動・体験中心の活動」と「文法等の学習」の連動の可能性

	テーマ	行動目標	行動・体験中心の活動	YOKE 教材 集	文化庁 カリキュ ラム案	『できる日本 語』参照箇所	『大地』 参照箇所	『みんなの 日本語』参 照箇所	文法等
第1回	どうぞよろしく (1)	簡単に自分のこと(名前、出身地、住んでいるところ、趣味、職業など)を話したり聞いたりすることができる ・ひらがな・カタカナの表記に馴染む	・ガイダンス ・名札づくり ・自己紹介(名前、居住地、出身地、趣味、家族、仕事など) ・ひらがな・カタカナ、数字	【A-1】 【A-2】	自己紹介	1-1私の名前・国・仕事、 1-3私の趣味	1課(2課)	1課	・私は[名前]です。 ・[国]人です。 ・出身は[国・町]です ・NのN
第2回	どうぞよろしく (2)		・前回は振り返りながら、自己紹介に関係することば・表現の確認・整理 ・参加者同士のQ&A	【A-1】 【A-2】	自己紹介	1-1私の名前・国・仕事、 1-3私の趣味	1課(2課)	1課	・[仕事]ですか？はい、[仕事]です／いいえ、[仕事]じゃありません ・何ですか ・NとN
	身の回りのもの	・身の回りの物を指し示して、何であるか、どのようなものか、だれの所有物であるか述べたり確認したりすることができる ・単語レベルで名詞の語彙を広げ、かな表記にも慣れる	・身の回りのもの(ペン、本、机、さいふ…など)をさし示しながら名称を確認するやりとり、ゲーム ・「これ／それ／あれ」の使い方の体験・練習・整理			(1-3レストラン…忘れ物の持ち主を尋ねる)	2課	2課	・身の回りの物の名称 ・これ／それ／あれ、この／その／あの
第3回	教室の中、教室の周り	・施設等の位置を確認できる	・地図をみんなで一緒に見ながら、YOKE周辺の施設等の位置確認(「みなとみらい駅はどこですか?」「ここです」) ・YOKEの中を歩き回りながら、フロアマップの間違い探し				3課	3課	・～はどこですか ・あそこ・ここ・そこ
第4回	買い物	・自分の買いたいものがどこにあるか聞くことができる。 ・自分が買いたいものの値段を聞くことができる	・デパートのイラストを見ながら、どこに何があるかについてやりとり。P.36のイラスト(洋服売り場)の絵を見ながら買い物の会話。			2-1どこですか 2-2いくらですか	3課	3課	・何階ですか 階数の言い方 ・～はどこですか ・あちら・こちら・そちら ・いくらですか ・それをご覧ください
第5回	レストラン	・レストランで注文することができる。また、忘れ物の持ち主が誰か聞くことができる。	・レストランのイラストを見ながら会話、ロールプレイ、ディクテーション、聴解タスク			2-3レストラン	2課	3課	・何のN ・[言語]で ・どこのN、誰のN ・Nを(～つ)ください
第6回	時間	・時間を尋ねたり知らせたりすることができる	・「今、何時ですか」「バンコクは、今何時ですかーバンコクは今10:15です」 ・「TimeにActionます」「TimeからTimeまで」を使った会話の体験・練習・整理			3-1何時までですか	5課	4課	・今、何時ですか 時間の言い方 ・[時間]から[時間]までです
	電話できいてみよう	・NTT104番の番号案内を利用できる ・公共施設に開館時間や休館日などを問い合わせることができる ・電話を使った問い合わせができるように	・横浜のさまざまな施設の営業時間と休みの日を携帯電話で実際に問い合わせる *学習者からのリクエストにより、タクシーの呼び方のデモンストレーションも行った。他に、レストランの予約、子供が病気になる時相談センターに電話して対処法を聞く方法なども希			3-1何時までですか	5課	4課	・何曜日ですか 曜日の言い方
	わたしの一日	自分の一日の行動について述べたり相手の行動について聞いたりすることができる	・一日の行動について話す ・週末の予定について話す			3-3どんな毎日?	6課	4課・5課・6課	・～をVます(習慣) ・Vません ・[場所]で

* 参照: http://www.yoke.or.jp/8nihongo/8_4jissshugata_kenshu.html
(横浜市国際交流協会HP「H24 教室実習型研修 実施報告」第I期プログラム内容)

	テーマ	行動目標	行動・体験中心の活動	YOKE 教材例 集	文化庁 カリキュ ラム案	『生きる日本 語』参照箇所	『大地』 参照箇所	『みんなの 日本語』参 照箇所	文法等
第7回	週末	・週末にしたことについて述べたり聞いたりすることができる	・週末にしたことについて話す			5-1 週末	5課 6課	4課・5 課・6課	・Vました ・Vませんでした
	よく行く場所	・自分がよく行く場所について話したり聞いたりする ・その場所の特徴についても、簡単な形容詞を使って述べる	・自分がよく行く場所について話す。	【A-5】			6課 7課	5課 ・(8課)	・～へ 行きます ・[交通手段]で ・いつも、よく、ときどき (頻度の表現) ・(形容詞)
	写真を見て	・写真を見ながら、写っているものの説明をしたり、特徴や印象などを話す。	・よく行く場所の写真や、家族の写真、お気に入りの写真を見せ合いながら話す	【A-4】			7課	8課	・～はAです ・イAくないです ナAじゃありません
第8回	★病院へ行きます	・多言語医療問診票の存在を知り、これを活用すればとりあえず病院へ行って受付ができることを知り、ひとりで病院に行けるようになる ・多言語医療問診票を辞書がわりに使用して、症状の言い方や意味をさぐる方法を	多言語医療問診票の紹介、病気・けがに関する簡単な語彙・表現	【E-6】	医療機 関で治 療を受 ける				
	★薬	・処方箋を見分け、薬局に持っていけるようになる。 ・薬のラベルを見る際にどこに注目したらよいか見分けられるようになる ・かぜの対処法について、それぞれの国での習慣、自分の習慣などを話すことができる	処方箋の見分け方、薬局での手続き、薬のラベルの読み方、薬局の利用の仕方		薬を利用 する				
第9回	ピザの注文	提案したり、誘ったりする。また提案や誘いに対して適切な受け答えをする。 電話でピザの注文ができる	・1期最終日のランチにピザを注文して食べることを提案し、電話で予約注文をするかどうか相談する お昼のランチにピザをとることに決めたら、電話で注文する。 ・「Vませんか」+「Vましょう」の体験・整理・練習	【B-2】		6-1 一緒に 行きませ んか	6課	6課	Vませんか
	わたしの国・まち	自分の国や町がどんなところか話したり質問したりできる	自分の国がどんなところか、形容詞を使って話す。クラスメート話を聞いて、質問する。			4-2.どんな ところ？	7課		・～はAです ・イAくないです ナAじゃありません
第10回	わたしの国・まち	自分の国や町について文にまとめることができる。他の人が自分の町や国について書いた文を読んで理解できる	自分の国や町について作文を書いてきて、それぞれに読みあう			4-2.どんな ところ？	7課		・～はAです ・イAくないです ナAじゃありません
	予定	教室の予定や来学期の予定について話したり聞いたりすることができる	・YOKE教室のスケジュール：今学期が来週終了、秋学期、冬学期の予定について、チラシのスケジュール表をみながら話す。 ・夏の予定について話す。			3-2私のス ケジュール	5課	5課	・Vます(予定)
	ふりかえり	これまでの学習をふりかえり、各自のポートフォリオを整理する。	これまでの学習をふりかえり、各自のポートフォリオを整理する。		ポート フォリ オ	各課の行 動目標リス ト			

* 参照: http://www.yoke.or.jp/8nihongo/8_4jissshugata_kenshu.html

(横浜市国際交流協会HP「H24 教室実習型研修 実施報告」第I期プログラム内容)

1. カリキュラム案についておさらい

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の

内容・方法 5点セットの全体像について

～背景・課題～



仕事や研究...ではなく、生活の部分に対する日本語教育について検討。

【グローバル化】

- ・グローバル化が進展し、人の国際的な移動も活発化
- ・日本に在住する外国人数の増加
- ・日本国内の日本語学習者数の増加

【目的に対応した日本語教育の必要性】

- ・生活上の基盤を形成する上で必要となる日本語教育（「生活者としての外国人」に対する日本語教育）の内容・方法が十分に確立されておらず、開発が必要。



～検討・提示～



ほかにも事業の企画や、教室活動の際にも使用したり、参考としたりしてください。

日本語教育小委員会において、

＜どんな人に活用していただきたい？＞

- ・一義的には各都道府県、市区町村における日本語教育担当者及びコーディネーターの役割を果たす人

＜どんな人に対応するために？＞

- ・「生活者としての外国人」（全ての外国人の生活の側面）

＜何をするのか＞

- ・生活上の基盤を形成する上で必要な日本語教育を行う際の内容・方法

について検討



指導者について、学習者について、指導者と学習者が会う教室活動の内容や方法についてまとめています。

5点セットを作成！

指導者について

教室活動

の内容について

学習者について

教室活動のデザインと参加

参加

行動・体験中心の教室活動への参加による日本語学習、相互理解

【目的】

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り、生活できるようになること

【目標】

- 日本語を使って
- 健康かつ安全に生活を送る
 - 自立した生活を送る
 - 相互理解を図り、社会の一員として生活を送る
 - 文化的な生活を送る
- ことができるようにすること

指導力評価

- ◎実践の振り返り・点検・改善から、実践者のコミュニティの形成へ

【内容】

日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルの観点から振り返るための資料として

- 指導力評価項目一覧（実際にはそれぞれの現場の状況や指導者の状況に応じて、必要な項目のみ選択して活用）
- 日本語教育プログラムの実践や研修受講の記録の様式
- 研修のプログラム例などを掲載しています。

生活上の行為の事例の一覧（多言語版）

作成：平成 25 年 2 月 18 日

（p.17～18 参照）

カリキュラム案

- ◎教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示

【内容】

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容として

- 来日間もない外国人が生活上の基盤を形成する上で必要であると思われる生活上の行為
- 生活上の行為の学習項目の要素（能力記述、場面、やり取りの例、機能、文法、4 技能に関する情報）などを掲載しています。

能力記述

作成：平成 22 年 5 月 19 日

（p.9～10 参照）

ガイドブック

- ◎カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせたときのポイントの解説

【内容】

カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントとして

- カリキュラム案における言語・言語習得の考え方
- カリキュラム案の活用及び指導方法に関するポイント
- 日本語教育プログラムの作成手順
- 活動方法の例の具体的内容を掲載しています。

生活上の行為の事例の一覧（多言語版）

作成：平成 23 年 1 月 25 日

（p.11～12 参照）

教材例集

- ◎行動・体験中心の教材の例

【内容】

カリキュラム案で取り上げている生活上の行為を取り上げ、行動・体験中心の教室活動で用いる教材を例示しています（教室活動の展開や工夫の仕方を説明した指導ノート付き）。

※教材例集は文化庁 WEB サイトからダウンロードし編集して使用することができます。

能力記述（詳細版）

作成：平成 24 年 1 月 31 日

（p.13～14 参照）

能力評価

- ◎振り返りの方法とポートフォリオの提示～やったことを確認して記録する

【内容】

学習者の自己評価に加えて、日本語能力を把握する方法と、学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを提示しています。

※能力評価は日本語教育プログラムの一環として行うものです。

生活上の行為の事例の一覧（多言語版）

能力記述（詳細版）

作成：平成 24 年 1 月 31 日

（p.15～16 参照）

参照してください！

➤『ハンドブック』 pp.7-8

文化庁「カリキュラム案」の 言語・言語習得の考え方

➤ 言語学習

- ・学習者が「できるようにになりたい」と望む生活上の行為を選ぶことで言語学習が進む

➤ 教室活動

- ・生活上の行為と教室活動がつながっていること
⇒ 体験・行動中心の活動

➤ 日本語教室から地域社会へ

- ・学習者の主体性を重視→学び続ける生涯学習へ
- ・地域住民との協働活動を取り入れる→対等な人間関係
⇒ ネットワークの構築
⇔ 自立

文化庁「カリキュラム案」の 言語・言語習得の考え方

➤「エンパワメント」の実現

新たに参入する「生活者としての外国人」にとって、日本語習得はそれ自体が最終目標ではありません。

獲得された意思疎通の手段により、**人とつながること**、言葉の壁によって発揮できなかった**自分らしさや力**を取り戻したり、発揮できたりするようになること、そして**社会の一員として自立**し、社会生活のあらゆる領域に**参画**すること、つまり「**エンパワメント**」を実現することによって初めて目標に到達したといえることができます。そのことをしっかりと見据えて、地域における具体的なプログラムを構築することが必要です。

(文化庁『生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック』p.3)

標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例

- 健康・安全に暮らす
 - ・ 健康を保つ
 - ・ 安全を守る
 - 住居を確保・維持する
 - ・ 住居を確保する
 - ・ 住環境を整える
 - 消費活動を行う
 - ・ 物品購入・サービスを利用する
 - ・ お金を管理する
 - 目的地に移動する
 - ・ 公共交通機関を利用する
 - ・ 自力で移動する
 - 人とかかわる
 - ・ 他者との関係を円滑にする
 - 社会の一員となる
 - ・ 地域・社会のルール・マナーを守る
 - ・ 地域社会に参加する
 - 自身を豊かにすることができる
 - ・ 余暇を楽しむ
 - 情報を収集・発信する
 - ・ 通信する
 - ・ マスメディアを利用する
- 「労働」「教育」に関するものを抜いてある

HOME > 国語施策・日本語教育 > 日本語教育 > 生活者としての外国人に対する日本語教育の内容・方法の充実 > 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック

<報告書全ページ>

[「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック](#)

(PDF形式(7.64MB))

※A4版, 全75ページ

※「標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例」の各言語版は、下からダウンロードすることができます。

<標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例(簡易版)>

[日本語版](#) (PDF形式(92KB)) [日本語\(ふりがな付\)](#) (PDF形式(122KB))

[英語版](#) (PDF形式(71KB)) [中国語版](#) (PDF形式(126KB)) [韓国・朝鮮語版](#) (PDF形式(160KB))

[スペイン語版](#) (PDF形式(72KB)) [ポルトガル語版](#) (PDF形式(72KB))

[アラビア語版](#) (PDF形式(88KB)) [インドネシア語版](#) (PDF形式(38KB))

[ウルドゥ語版](#) (PDF形式(82KB)) [クメール語版](#) (PDF形式(82KB))

[シンハラ語版](#) (PDF形式(112KB)) [タイ語版](#) (PDF形式(83KB)) [ドイツ語版](#) (PDF形式(38KB))

[トルコ語版](#) (PDF形式(140KB)) [ネパール語版](#) (PDF形式(91KB))

[ヒンディ語版](#) (PDF形式(69KB)) [フィリピン語版](#) (PDF形式(53KB))

[フランス語版](#) (PDF形式(43KB)) [ベトナム語版](#) (PDF形式(123KB))

[ベンガル語版](#) (PDF形式(86KB)) [マレー語版](#) (PDF形式(38KB))

[ミャンマー語版](#) (PDF形式(80KB)) [モンゴル語版](#) (PDF形式(97KB))

[ロシア語版](#) (PDF形式(54KB))

<標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例(詳細版)>

[日本語版](#) (PDF形式(216KB)) [日本語\(ふりがな付\)](#) (PDF形式(637KB))

生活上の
行為の
事例

23言語の
項目の
翻訳

簡易版
＋
詳細版

カリキュラム案の活用方法

【日本語教育プログラム作成手順】

1. 域内の外国人の
状況・ニーズ，地域
の資源等の把握

- (1) 対象とする学習者の属性や数の把握
- (2) 生活課題の把握
- (3) 地域の資源の把握

2. 日本語教室
の目的や設置
場所等につい
ての検討

- (1) 日本語教室の目的を設定
- (2) 学習者のニーズ，地域のリ
ソースに基づいた教室の設置
 - ① 地域課題，域内の外国人の状
況 に対応した日本語教室の設置
 - ② 行政・関係機関との連絡調整

プログラムの
見直し

相互作用

3. 具体的な日
本語教育プロ
グラムの作成

- (1) 学習内容について検討
- (2) 学習順序について検討
- (3) 学習時間について検討
- (4) 指導者・協力者について検討
- (5) 教室活動について検討
 - ① 行動・体験中心の活動について検討
 - ② 教材について検討
 - ③ 評価について検討

各地域の実情
に応じた日本語
教育の実施

2. 行動・体験中心の活動について ～具体例から～

(例) 学習者Aさんの状況

【出身】 タイ 【性別】 女性 【年齢】 30代

【来日経緯・日本滞在の理由】

タイで出会った日本人駐在員と結婚して来日。
現在幼稚園に通う娘(5歳)がいる。

【日本語レベル】

限られた語彙をつなげて、簡単な会話ができる

【母語】 タイ語

【過去の外国語学習経験】

タイの中学校の授業で英語を履修した（現在、英語でのコミュニケーションはほとんどできず、日常的にはほとんど使えず、ごく基礎的な単語がわかる程度）

【現在の社会的な役割・立場】

主婦、妻、母親（子育てに余裕ができ、自分にできる仕事があったらパートに出たいと思っている）

【生活課題】

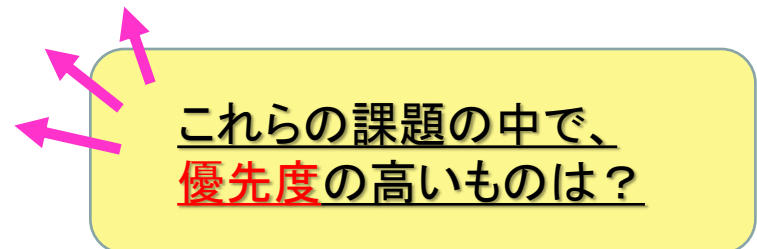
●保護者としての役割を果たすこと

・・・現在、子どもの幼稚園からのおたよりを理解して必要なものを準備したり、行事に参加したりできるようにならなくてはと思っている。幼稚園の関係者（教師、他の保護者など）とのコミュニケーションもできるようになりたい。

●家族の健康・安全を守ること

・・・現在、病院に行くときには、夫に会社を休んでもらって付き添ってもらっている。子供の急な病気やけがで自分で対応しなくてはならないこともあるので、自分だけでも子供を連れて病院にいけるようになっておかななくてはと思うが、不安がある。

●将来、仕事ができるようになること



Aさんが自分の力で病院に行けるようになるためには 何が必要か(1)

<日本語を使ってできるようになるといいこと>

- 周囲の人に症状・様態を伝えて、助言(地域のどの医療機関に行くとよいか、など)を求めることができるようになる
 - ・・・自分の症状を伝えることばを知り、部分的にでも使えるようになる
- 「多言語医療問診票」を使って(「これ、おねがいします」と言って問診票を出して)、受診の受付ができるようになる
- 自分の症状などを伝えたり、医師の診断や指示を理解する
 - ・・・重要なことはメモに書いてもらい、家に持ち帰って家族と共有したり、周囲から助けを得たりする際に使えるようにすることも考慮)

Aさんが自分の力で病院に行けるようになるためには 何が必要か(2)

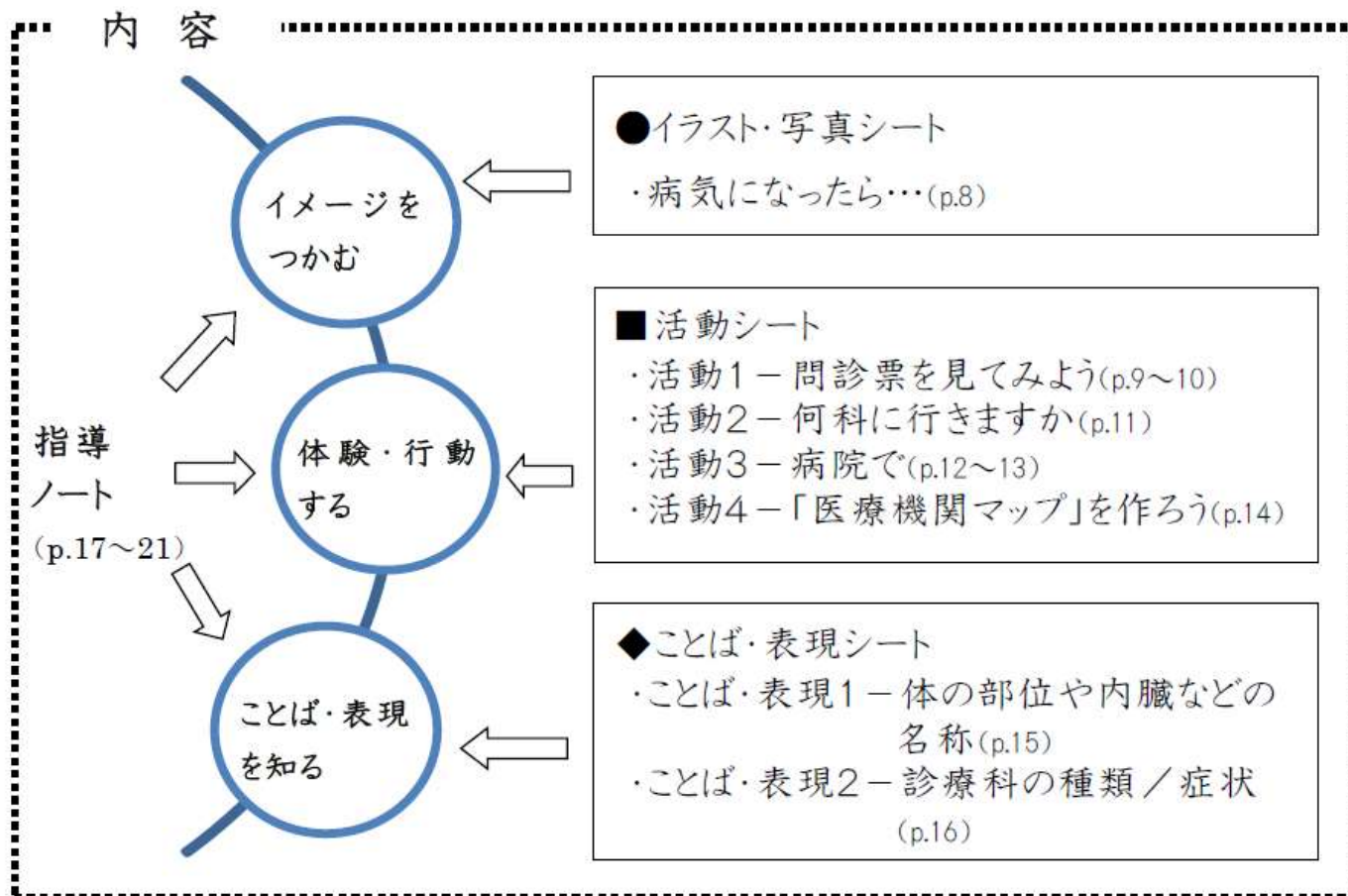
<知識・情報として>

- 日本の医療システム、医療機関を受診する際の手続きの流れ
 - 病院で どのようなことが どのような手順で進むのか、
ある程度のイメージをもって備えられるように
- 「多言語医療問診票」の存在
- 医療通訳サービスのアクセス方法など
- 地域で評判のいい病院・医院、 評判の悪い病院・医院、
診療時間、交通アクセス等の情報
-

Aさんのための 行動・体験中心の活動案 ～教材例集の活動案をもとに調整を加えて～

(01) 医療機関で治療を受ける

➤教材例集
p.7



Aさんのための行動・体験中心の活動案 ～教材例集の活動案をもとに調整を加えて～

取り上げる生活上の行為の事例

➤教材例集
p.7

(0102010)「初診受付で手続をする」

(0103010)「医者診察を受ける」

(0103120)「病気への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する」

教室活動の目標

- ・病気やけがのとき、医療機関で治療を受けることができる

・Aさんが、この行動を実際に起こせるようになることを目指す

・教室活動そのものも、行動・体験中心（参加型）に

教室活動のねらい

- ・症状を伝えることができる
- ・医者診察、指示が理解できる
- ・病気への対処法・生活上の注意を尋ねる
- ・病気への対処法・生活上の注意を理解できる
- ・地域での医療機関の活用について話し合うことができる

行動を起こすために必要な知識・情報についても考慮

→日本の医療制度（母国の制度との違い）、
医療通訳サービス活用法、
多言語リソースの活用法、
地域の病院・医院の評判、
診療時間、交通アクセスなど

● 病気になったら…



イメージを
つかむ

イラストを一緒に見ながら、病気をした経験や、病院・医院で診察を受けた経験について尋ね、話してもらう

「日本で病院へ行きましたか。」
「かぜ？」「おなか？」
「だれと 行きましたか。」

イメージをつかむ

●イラスト・写真シート

・病気になったら…(p.8)

- ・「イラスト・写真シート」(p.8)を提示しながら、学習者に病気をした経験や、病院や医院で診察を受けた経験について尋ね、話してもらいます。どんな症状で、どの病院(医院)にかかったか、医者とどのようにコミュニケーションしたかなどを話してもらえるように引き出します。

< 問いかけ例 >

「ここはどこですか。何をしていますか。」

「どんなとき、病院に行きますか。」

「〇〇さんは、日本で病院に行ったことがありますか。」

「一人で行了きましたか。」

「日本語でお医者さんと話をしましたか。」

Aさんにとっての課題を確認し、それを解決できるようになりたいという気持ちを引き出し、共有する
(課題提起 problem posing)

Aさんの日本語レベルと状況に合わせて調整

➤教材例集 p.18
指導ノート

「Aさんは 日本で病院へ行きましたか。」
「どうして 病院へ行きましたか。」
「なぜ？」「おなか？」
「だれと 行了きましたか。」

แบบสอบถามอาการแพกเด็ก 小児科問診票

กรุณาใส่เครื่องหมาย ☒ ใน ☐ ข้อสอบถามต่างๆดังต่อไปนี้ ปีพ.ศ. ๒๕____ เดือน ๒____ วันที่ ๒____

ชื่อและนามสกุลของเด็ก 子供の名前

☐ ชาย 男 ☐ หญิง 女

วันเดือนปีเกิด 生年月日 ปีพ.ศ. ๒๕____ เดือน ๒____ วันที่ ๒____

ที่อยู่ 住所

เบอร์โทรศัพท์ 電話

มีใบประกันสุขภาพหรือไม่ 健康保険を持っていますか?

☐ ไม่มี 無 ☐ มี 有

สัญชาติ 国籍

ภาษา 言葉

มีอาการอย่างไร どうされましたか?

- ☐ มีไข้ (____) 熱がある ☐ เจ็บคอ 喉が痛い
☐ ชีพเร็ว 元気がない ☐ หงุดหงิด 機嫌が悪い
☐ ปวดท้อง 腹痛 ☐ ปวดหน้าอก 胸痛
☐ อาเจียร 嘔吐 ☐ เบื่ออาหาร 食欲不振 ☐
☐ ท้องเสีย 下痢 ☐ อุจจาระเป็นเลือด 血便

เด็กเคยมีอาการแพ้ยาและอาหารหรือไม่ 薬や食物で

- ☐ ไม่เคย 無 ☐ เคย 有 → ☐ ยา 薬
☐ อาหาร 食べ物

ปัจจุบันเด็กกินยาอยู่หรือไม่ 現在飲んでいる薬はありますか?

- ☐ ไม่กิน 無 ☐ กิน 有 → 名 氏

เด็กสามารถกินยาชนิดไหน どのような種類の薬が飲めますか?

- ☐ ยาน้ำ (ไซริป) 水薬 ☐ ยาผง 粉薬

ประวัติแรกเกิดของเด็ก 出産の状態はどんなでしたか?

น้ำหนักของเด็กทารก (____) グラム 赤ちゃんの体重

- ☐ คลอดปกติ 正常分娩 ☐ คลอดผิดปกติ 異常分娩

ได้รับการฉีดวัคซีนอะไรบ้าง 接種済み予防注射?

- ☐ การทดสอบซีเบรูลิน ツベルクリン反応 ☐ 麻疹 麻疹
☐ หัดเยอรมัน 風疹 ☐ อีสุกสีใส 水痘
☐ วัคซีนรวมคอตีบ (ไอกรน คอตีบ และบาดทะยัก) 三種混合

ที่ผ่านมาเด็กเคยป่วยเป็นโรคอะไรบ้าง 過去にどのような病気を患いましたか?

- ☐ หัดเยอรมัน 風疹 ☐ อีสุกสีใส 水痘
☐ หัด 麻疹 ☐ คางทูม 流行性腮腺炎
☐ ไข้คอตีบ 百日咳 ☐ โรคตับอักเสบ 肝炎
☐ โรคสมองอักเสบญี่ปุ่น 日本脳炎 ☐ ไข้หวัด 風邪

โรคนี้หายแล้วหรือยัง その病気はなおりましたか?

- ☐ ยังไม่หาย いいえ ☐ หายแล้ว はい

เด็กเคยใช้ยาสลบแล้วมีปัญหาหรือไม่ 麻酔をしてトラブルはありましたか?

- ☐ ไม่เคย いいえ ☐ เคย はい

เด็กเคยได้รับการผ่าตัดหรือไม่ 手術を受けたことがありますか?

- ☐ ไม่เคย いいえ ☐ เคย はい

*一人で病院に行けるようになりたいが、どうしたらいいかわからない、という話が出てきたら、

「これは多言語医療問診票です。」

「タイ語もあります。」

「これを 書きます。病院で 出します。だいじょうぶです。」

「ほしいですか? 使ってください」

*例えば神奈川県内の公立病院であれば、病院側が必要だと判断すれば、病院側の費用負担で【医療通訳】が手配してもらえる制度がある。そのためにも、まずは何となくして、病院に行って初診を受ける必要があることを伝える。

(01) 医療機関で 治療を受ける

○「多言語医療問診票」で、ことばを 確認しましょう。線で つなぎましょう。

どこへ 行きますか。

外科

内科

小児科

産婦人科

皮膚科

整形外科



どう しましたか。

(a) 咳が 出る

*「咳 です」

(b) やけど

*「やけど です」

(c) 発熱

熱が ある

*「熱 です」

(d) めまいが する

(目が まわる)

*「めまい です」

(e) 発疹が ある

(ブツブツ) がある

*「ほっしん 発疹 です」「ブツブツ です」

(f) 腰を 打った

(打撲) した

*「お腰 打撲 です」

(g) お腹が 痛い

*「おなか が いたい です」

「おなか 痛い です」

体験・行動
する

Aさんにとって
わかりやすいことは、
使いやすいことばに
調整。

絵カードを使って
カルタ取り
ジェスチャーゲーム
→身体を動かしながら
ことばを身に付ける
工夫

<ロールプレイ>

A：(ひいたカードの絵にあわせて、
ジェスチャー)

B：(心配そうに)
どうしたんですか

C：おなかがいたいですか？

A：(苦しそうに)…はい。

(1) 会話例1

(受付で)

A さん : ああ、初めて なんです。

受付の人 : 初診ですね。こちらの 問診票に
記入してください。

A さん : (多言語医療問診票を 渡しながら)
これ、書いてきました。



(2) 会話例2

(診察室で)

医師 : どうしましたか。

A さん : (多言語医療問診票を 見せながら)

昨日から 頭が 痛いんです。

熱が あります。

医師 : 口を 大きく 開けてください。

かぜですね。5日分の 薬を
出しておきます。



(3) 会話例3

(診察室で)

参加者それぞれが、自分がかかりそうな
病気・症状を想定して、問診票を記入

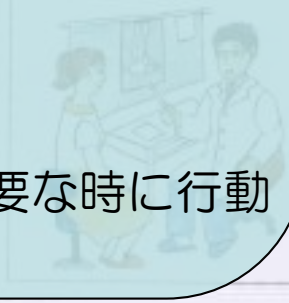
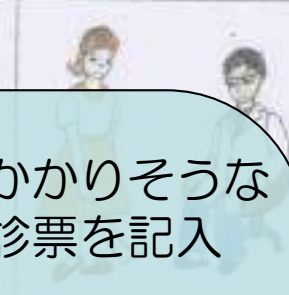
診療所で問診票を出しながら話す場面を
想定

協力者と一緒に、想定される場面を考え、
それぞれの日本語レベルに合わせて
会話例を一緒に作ってみて、
ロールプレイ。

疑似体験により、実際に必要な時に行動
できるように備える

日 さん : ああ、お風呂に 入っても

大丈夫でしょうか。



Aさんの場合は、医師の診断について、
「すみません、メモを書いていたいただけませんか
(書いてください)。主人にも見せます。」と、
医師やスタッフに依頼することも、取り入れる

■ 活動4-「医療機関マップ」を作ろう

(1) みんなで まちの 病院(びやういん)や 医院(いいういん)について 話(はな)しましょう。

- ・ どの病院・医院に 行ったことが ありますか。
- ・ ことばの サポートがある 病院は どこですか。
- ・ 多言語医療(たごんごいりよう)問診票(もんしんびょう)が 使える 病院は どこですか。

(2) 教室(きょうしつ)の 人(ひと)たちと 一緒に まちの 病院(びやういん)や 医院(いいういん)の 情報(じょうほう)を 集めて、
地図(ちず)を 作(つく)ってみましょう。



教室に参加している学習者・指導者・協力者（地域住民）みんなで、地域の病院や医院について情報を出し合い、「医療機関マップ」を作成してみる。

それぞれに行ったことのある病院・医院の名前を挙げ、そのときの体験を語りながら、病院・医院の特徴や、多言語サポート状況等をリストアップ。

協働作業の中で対話が活性化

地域住民が、外国人がおかれている状況を知り、課題解決・状況改善の方法について、共に考え行動していくきっかけ作りも

次の回、別の回に行ってもよい。
教室全体の長期的プロジェクトにする

■ 活動5－風邪(かぜ)を 引(ひ)いたら…

あなたは、風邪(かぜ)を 引(ひ)いたとき、どうしますか。

あなたの 出身地(しゅしんち)(国(くに)、地域(ちいき))の 人々(ひと)は、よく どんなことを しますか。

A: あたたかくして、早く 寝(ね)る

B: 牛肉(ぎゅうにく)を 食(た)べる

C: みかんの 皮(かわ)を 焼(や)いて 食(た)べる

D: しょうがを 食(た)べる

E: チキン スープ(すーぷ)を 飲(の)む

F: 蛇(へび)の スープ(すーぷ)を 飲(の)む

G: お祈(いの)りを する

F: _____

いろいろな人(ひと)に 聞(き)いて みましょう。

_____さん  

_____さん  

_____さん  

いろいろな 方法(ほうほう)が ありますね！ みんな ちがうように 見(み)えますが、

共通(きょうつう)していること(おな)こと(こと)は 何(なん)でしょう？

<バリエーション>

風を引いたときの対処法について、
教室の仲間や地域住民と対話

→国や地域などによる
対処法(=文化)の多様性を
相互に理解

人間として共通することへの
気づき

(人はよりよく生きるために助け合い、
知恵を共有し、
世代を超えて伝えあう)

* 「(02)薬を利用する」収録の
教材を活用

>教材例集
p.32

「ことば・表現シート」は、行動・体験活動の中で必要に応じて参照するためのもの。

にほんご
日本語 エアロビクス

ことば・表現(ひょうげん)を知る(しる) (Q1) 既習 機関で治療を受ける

ひょうげん かた ぶ い ないぞう めいしやう

◆ ことば・表現1-体の 部位や 内臓などの 名称

男性 (Male) labels: かお, あたま, かた, むね, おなか, て, ひざ, すね

女性 (Female) labels: まゆ, はな, は, くち, かみ, め, ゐみ, のど, かんぞう, もうちやう

内臓 (Internal Organs) labels: はい, しんぞう, い, ちやう

<バリエーション>
身体ほぐし・
ウォームアップに
「日本語エアロビクス」を
してみてください！

♪♪あたま・かた・ひざ・あし♪♪

あたま かた ひざ あし ひざ あし ひざ あし

あたま かた ひざ あし め みみ はな くち

♪♪ラララ みぎて♪♪

ラララ 【みぎて】 ラララ 【みぎて】

ラララ 【みぎて】を くるくるぼん

ホキボキダンス ホキボキダンス ホキボキダンスを おどろう

ひだり 左 hidari ↔ みぎ 右 migi

【ひだりて】	【みぎて】
【ひだりあし】	【みぎあし】
【あたま】	
【おなか】	
【おしり】	

日本語コミュニケーションワークショップ第2回「健康・病気・けが」

＜準備＞
じゅんび
jun bi
(preparation)
なふだ なまえ か
Nafuda ni namae o ka ki ma su
(name-plate) (name) (write)

12:30～
あいさつ・説明
Aisatsu setsumuei
(introduction) (explanation)

ウォームアップ: 日本語 エアロビクス
wo o mu a ppu ni ho n go e a ro bi ku su
(warm up) (nihongo) (aerobics)

ゲーム: 身体のことば & 病気のことば
Ge e mu kara da no kotoba byouki no kotoba
(game) (body parts) (words) (illness) (words)

「多言語医療問診票」を 使ってみましょう
tagenngo-iryuu-monshinnhyou o tsukatte mimashou
(multilingual medical questionnaire) (let's try to use)

ビデオ: 「病院で」
Bi de o byou inn de
(video) (hospital) (at)

みんなで スキットを 作りましょう。 ロールプレイを しましょう
Mi rin na de su kit to o tsukuri mashou rou ru pu re i o shimashou
(everybody together) (skit) (let's make) (role playing) (let's do)

13:50～
今後の ワークショップの 予定
Konngo no waa ku sho ppu no yotei
(future) (workshop) (schedule/plan)

13:55～
アンケートを 書きます
A nn ke e to o ka ki ma su
(questionnaire) (fill out)



◎身体のことばと病気のことばのカードを使ってかるた取りをしました。



一般の日本語母語話者も学習者と一緒にロールプレイをしました。

参照:
横浜市国際交流協会HP
「H24 教室実習型研修
実施報告」
第II期日本語コミュニケーション・ワークショップ
第2回 健康・病気・けが
http://yoke.or.jp/8niho/ngo/nihongo/24nen_ji_sshugata_keishu_ho_koku_toshi.pdf

~~~~~病院でのスキット~~~~~

講師、講師アシスタント、支援者が患者、医者、受付役になり病院でのスキットを行いました。



「あのう、これ、もってきました。」
(自分で書いた問診票を持って受付へ)



(医師のことばが分からないとき)
「すみません、メモしてください。
かぞくに見せます。」



「しょうせん？何ですか。」
(診察が終わって会計で)



病気の症状の絵カードでかるた取り。



学習者の病院体験のヒアリングをして
スキットを作りました。

<学習者の声>学んだことは？

＊アンケートより抜粋

- ・病院のスタッフ、医者メモはフリー(注)、初診、問診票、メモしてください。

(＊注) 医者の書いてくれるメモには費用がかからない。

参照：

横浜市国際交流協会HP

「H25 教室実習型研修 実施報告」

http://www.yoke.or.jp/8nihongo/nihongo/2014_kyoshitsu_jisshugata_kenshu_Hokoku.pdf

カリキュラム案を教室活動に活用するポイント

- ① 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫：
→対象となる学習者の状況、生活課題、ニーズを
捉えることから出発
*「生活上の行為の事例」一覧表(23言語)を活用
- ② 実際に「できるようになる」ために、
行動・体験中心の活動を設計
- ③ 専門家・地域住民との協働の活動を取り入れる
- ④ 対話による相互理解が促されるように活動を工夫

3. 行動・体験中心の活動のデザイン について考えてみよう

活動をデザインしてみよう： グループワーク

(1) グループの中で共有した複数の学習者の中から、
一人の学習者Bさんを選ぶ



(2) Bさんの状況、生活課題、ニーズを考える



(3) Bさんにとって必要な「生活上の行為の事例」を検討し、
その中から優先度の高いものを選ぶ



(4) その「生活上の行為」ができるようになるための、「行動・体験中
心の教室活動」を考える

- * Bさんを中心に検討しつつ、他の学習者も参加することを想定してよい
- * 「医療機関で治療を受ける」を選んだ場合は、先に挙げた例をたたき台にして、
Bさんのレベルと教室の状況にあわせてどのように【調整】【工夫】を加えるか
を考えてもよい

★どんな活動を、どのように進めるか

★協力者は

★活動を進めるために必要な教材(リソース)は？

★「対話による相互理解」の取り入れ方は？

活動をデザインしてみよう： 学習**内容**について検討

活動をデザインしてみよう： 学習**方法**について検討

教室活動設計のポイント

- ① 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫：
→対象となる学習者の状況、生活課題、ニーズを
捉えることから出発
*「生活上の行為の事例」一覧表(23言語)を活用
- ② 実際に「できるようになる」ために、
行動・体験中心の活動を設計
- ③ 専門家・地域住民との協働の活動を取り入れる
- ④ 対話による相互理解が促されるように活動を工夫

4. 教材例集活用の留意点

「教材例集」活用の留意点

「『教材例集』中の教材例を使用する際には、適宜修正を加えて、地域の実情や学習者の日本語レベルに合わせて、教材例の内容に手を加えたり、多言語情報を活用したり、母語話者の協力を得る等、工夫を行うことが必要」(『教材例集』p.4, 『ガイドブック』p.4)

- 実際の教材は、地域の実情・学習者の状況に合わせて、それぞれの現場で作成すること。教材例集は、そのための参考例。

さまざまな事例から学ぼう

15:10～16:10

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
事例発表 ポスターセッション

16:15～16:45

分科会・事例発表の成果共有・報告会

<参照ホームページ>

●文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/seikatsusya/index.html

●日本語教育コンテンツ共有システム NEWS

<http://www.nihongo-ews.jp/>

15:10～16:10 事例発表ポスターセッション

地域日本語教育実践プログラムA

番号	都道府県	団体名	事業名
1	徳島県	徳島県	徳島で暮らす外国人のための日本語教育事業
2	愛知県	国立大学法人名古屋大学	地域住民としてのライフステージを支える 生活日本語教室運営事業

地域日本語教育実践プログラムB

番号	都道府県	団体名	事業名
3	福岡県	株式会社愛和学園	福岡市で暮らすムスリムのための包括的な日本語教育体制整備
4	福岡県	特定非営利活動法人 女性エンパワーメントセンター福岡	福岡県における 都市圏から離れて散在する日本語教室の体制整備
5	佐賀県	公益財団法人 佐賀県国際交流協会	佐賀県「生活者としての外国人」に対する日本語教育体制整備事業
6	沖縄県	NPO 法人 沖縄国際人材支援センター	「県内在住生活者としての外国人」のための地域日本語教育実践プログラム

振り返り・質疑応答

おわり